

2026台湾THBSC国際シンポジウム参加報告

日本医療バランスト・スコアカード研究学会
理事長 赤瀬 朋秀

日本医療バランスト・スコアカード研究学会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

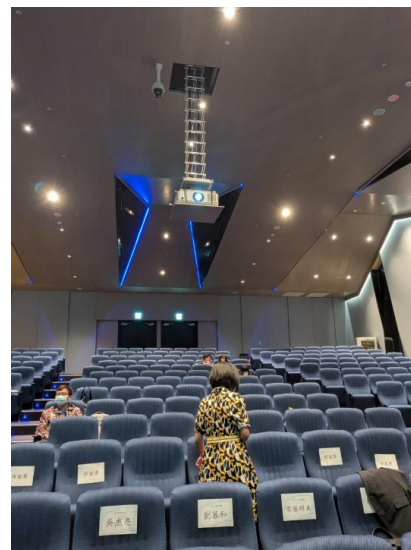
さて、去る2026年5月30日（土）に台北市の衛生福利部台北医院において2026HBSC 年會暨醫療大缺工下平衡計分卡的關鍵角色國際研討會（2026台湾THBSC国際シンポジウム）が開催されました。同・国際シンポジウムには、日本側から小職、齋藤雅也理事（総合犬山中央病院 病院長）をはじめ、合計6名が参加し、口頭1題、ポスター2題の発表をしてまいりましたので、概要についてご報告させていただきます。

今回の国際シンポジウムのテーマは「医療業界の人手不足解消に向けたBSCの役割」、その背景には少子高齢化という人口動態の変化の中、イノベーションやDXを最大限に活用したとしても、医療従事者の確保は直近の課題であるという認識があります。冒頭に、林静儀先生（衛生福利部政務次長）より、台湾における少子高齢化の現状と労働力不足に関する危機意識について報告がありました。ご講演を伺って、驚くほど日本の状況と酷似している状況であることが理解できました。また、産業界における人材獲得の事例や、経営組織論やリーダーシップ論を活用した人材獲得のあり方など、我が国の医療業界における人材獲得のにも参考になる事例について報告がありました。

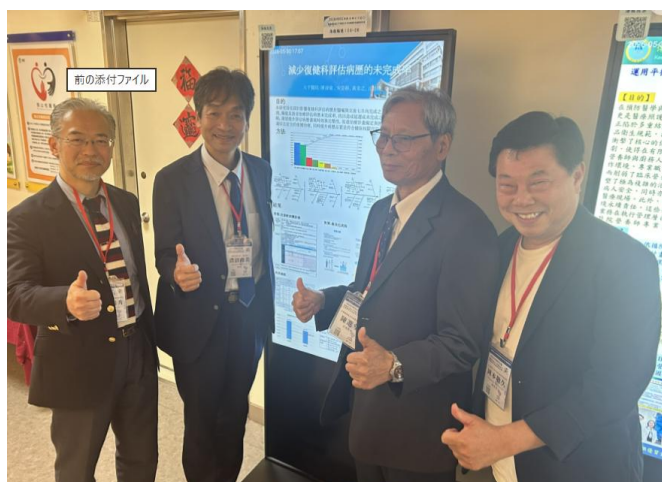
日本側からは、小職から「運用平衡計分卡制定人才招聘战略: バランスト・スコアカードを活用した人材獲得に向けた戦略」と題し、定年前後の人材の活用や、その具体的な手法について自身の取り組みを事例として報告させていただきました。齋藤雅也理事からは、Management of Regional Collaboration Center of Inuyama Chuo General Hospital Using Balanced Scorecard (Part 2)のポスター発表、帝京平成大学薬学部の濃沼政美教授からはIntegration of Clinical Pathways and Balanced Scorecard: A Three-Type Model Linking Strategy and Clinical Practiceの演題がポスター発表されました。

また、プログラムの合間に会場となった衛生福利部台北病院の見学をさせていただきました。時間の都合上、薬剤部と病棟ナースステーションの2か所のみに留まりましたが、それぞれの部署においてDXが導入されており、特にGPSを活用してスタッフや機器の動きが把握できたり、医薬品の在庫や使用状況がリアルタイムで把握でき、使用された医薬品の発注にまでシステムが及んでいることに驚かされました。日本も医療DXが進んできておりますが、こういった交流により相互の発展も期待できると感じた次第です。

学会当日の様子



※会場となった衛生福利部台北病院(フォロワー9,000人超)
院内に立派なシアターがあり、映画上映なども行われています



※陳進堂THBSC学会前理事長とポスター会場にて
ポスターはデジタルサイネージで



※講演の様子
同時通訳が付きます

次年度の予告

次年度の2027台湾THBSC国際シンポジウムは台中市で開催される予定です。詳細が決まり次第、ご案内をさせていただきますので、多くの会員の先生方のご参加、ご発表をお待ちしております。